

情報連絡員報告を中心とした

## 県内の中小企業動向

平成24年4月期

情報連絡員50名 回答数50名

## 全体概要

【前月からの動き】

## ↻ 前月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は7から5に減少。「減少した」業種は1から5に増加。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は15から5に減少。「減少した」業種は6から14に増加。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は6から1に減少。「悪化した」業種は11から12に増加。

## ↻ 前年同月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は5から7に増加。「減少した」業種は6から7に増加。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は11から13に増加。「減少した」業種は13から7に減少。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は9から10に増加。「悪化した」業種は17から15に減少。

## 製造業

## ■ しょうゆ製造

【県内全域】

食品に含まれる放射性セシウムの基準値が4月1日から1kg当たり500Bqから100Bqに引き下げた影響で、原料は輸入が主であるので、全く問題はないが、納入先から証明書等コスト増加要因が要求されている。

## ■ 豆腐製造

【県内全域】

放射能の影響により西日本、北海道産大豆が入札が殺到した。4月に入り、入札に西日本、北海道産大豆が出てこなくなり、国産大豆の確保が難化、国産大豆離れが懸念される。当組合としては、長年契約栽培している分は確保しているが価格が高騰している。

## ■ 製材

【木更津】

ロシア船（1隻）南洋材（1隻）の入港あり。需要と供給のバランスもあるが、木材船を定期便とみて、価格を下げる傾向がある。木更津は、金田地区のみがにぎわっている状況。

## ■ 印刷

【県内全域】

4月の受注売上は大きく悪化した。年度末迄は例年以上とも思える需要があったが、4月に入った途端全国的にも仕事の点数が大きく

減少した模様。官公需に依存する比率が高い県内業者は、受注競争の激化による単価下落・予算縮減の影響による物件の減少や数量の減少の中、各社はソリユーション・プロバイダーへの指向を一層強め、生き残り戦略の立案が必須。

## ■ 生コン製造

【県内全域】

生コン需要が回復傾向にある。

## ■ 電気鍍金

【千葉】

震災後1年を過ぎて、4月に入り幾分景況の変化が見られた。

## ■ 鉄工

【千葉】

当組合が独自に実施している事業所動向調査（毎年4月、10月、2回実施）の結果、「景況感」「受注動向」「販売推移」等において、従来よりワランク低下しているとの回答が得られた。全般的に苦戦している中であって、自動車関連（自動化システム）、建設機械、ロボット関連等が稼働向上中で、比較的堅調な推移を見せている。

## ■ 機械部品製造

【流山】

若干売上は微増しているようであるが、電力の値上げもあるので厳しい状況に変化はない。

## ■ 機械部品製造

【柏】

全体的には低調（欧米⇨停滞、中国⇨停滞、国内⇨自動車好調難

持)半導体関係は特に低調。現況2〜3ヶ月続きそう。

業界動向は、自動車軽量化、競争激化、生産は九州増産、今後も主体は九州。東北も自動車は復興を含め、カーメーカープラス基調。

【探石】 【県内全域】

平成24年度の港湾事業整備事業が東京港と横浜港で予定されており、5月の連休明けから砂岩スリや割栗石の出荷が期待できる。

【土砂採取】 【県内全域】

公共事業等の発注が減少し、骨材需要も減少。各企業は事業運営に苦慮している。しかし、一部には前月同様、災害復旧の關係で骨材需要増加の方向のところがある。

【非製造業】

【総合卸売】 【千葉県・東京都】

好況IIブランドサンダル卸・販売。例年の夏物の出荷に加え、大型SC・アウトレットモール等の開店があり、出荷量増加している。

【食肉卸売】 【千葉市他】

牛の枝肉価格が少し改善した。

【建築材料卸売】 【県内全域】

数量的には4月も前年比15%増加の基調は続いているが、新規物件が乏しく、景気回復感はない。

【自動車解体】 【県内全域】

エコカー補助金の好影響で廃車仕入は好転。超円高が一服したことにより、海外向け部品販売に不安感が残った。

【乾物卸売】 【県内全域】

消費低迷状況は変わらず。千葉県産海苔は、風評被害を被っている。県産、東京湾産の農産物に対する不安感が消費者及びバイヤーに出ているようだ。敬遠する動きが見られる。

【小売】 【柏】

週末毎の天候不順にたたられたが、前年数字はクリアした。軽衣料品の動きとともに、装飾品、雑貨類も売れている。

【電気機器小売】 【県内全域】

先月に続き販売の低迷が止まない。期待される太陽光発電も未だ伸びず先が読めない。メーカーの殆どが数千億の赤字となり、量販の売上も芳しくない模様。家電販売の氷河期に入った感じがする。

【青果小売】 【千葉】

野菜の相場が低下したため、売りやすい値段となった。また、年度初めのイベント等も順調に入り、品物が大きく動いた。動かした割には収益が取れていない。

【中古車仕入・販売】 【県内全域】

エコカー補助金の効果による中古車流通台数も大きく膨らみ、活性化につながる結果となった。中古車登録は微減。オークション出品は増加。出品の拡大は夏頃まで続く見込み。中古車輸出はアジア向けが増加の傾向。

【小売】 【東金】

昨年は震災影響で食品以外は売上低迷。今年は、食品は前年並み。ファッション関連品は、相変わらず伸び悩み傾向。高額品が低迷している。山武地区については、景気低迷傾向が続いている感がある。

【小売】 【野田】

食品関係は良かったが、その他の店舗は低調だった。

【印鑑小売】 【県内全域】

子供を対象とした「消しゴムはんこ教室」など今年度事業として行いたい。

【小売・サービス】 【柏】

春物は気候不順で在庫を残す。GW前の販売チャンスで春物一掃のミニセールを実施する店が増えている。相変わらず高額品が苦戦。メーカーの話によると秋・冬物の展示会受注が全く伸びないとの事。

【建設揚重】 【県内全域】

下降。4月迄好調が継続する見込みが早くも落込み。

【旅館】 【鴨川】

震災後、ようやくお客様が戻ってきた。

【遊覧船】 【鴨川】

震災後1年を過ぎたが、前年と比較して売上等は増加しても21年度に比べればまだ70%程度。

【一般廃棄物処理】 【千葉市】

近年の中で一番状況の良い状態が4月となった。来月の巻き返しも期待できず、非常に厳しい状況。

【学習塾】 【県内全域】

中学校の学生指導要領の改定により、教科書の内容が約30%増。それに伴い中学生の入塾割合が増えた。しかし、小学生の動きはまだだ。5月が山場となりそう。

【ソフトウェア】 【県内全域】

最悪な状態から脱却しつつあるように思える。

【建設】 【県内全域】

例年通り、4月の受注額は減少。

【貨物運送】 【野田】

3月の余波が残り多少物流量は改善されている。

【輸出入】 【県内全域】

回復してきたが、平成22年度には達していない。